



2013MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第3戦 参戦報告書

予選8位 決勝5位

- ゼッケン/エントリー名 : #01/エヴァRT初号機シナジーフォースTRICKSTAR
- 監督 : 鶴田 竜二
- ライダー : 出口 修
- 開催日/サーキット : 6月1日(土)～6月2日(日)ノートポリスサーキット(大分)
- マシン : カワサキZX10R
- 結果 : 予選8位 決勝5位

[予選] 6月1日(土) WEATHER: Rain COURSE:Wet

朝から雨が降り路面はウェットコンディションの中で行われた。

今シーズンから、チームはタイヤをダンロップタイヤのサポートを受けながら活動をしている。

レースやテストで、レインタイヤを試す機会がまだなく、この日が初トライだった。

序盤からタイヤのグリップを探りながら積極的にタイムアタックを繰り返す出口選手。

雨の降り方により、路面コンディションが目まぐるしく変わる中、10周目に2'03.901のタイムを出し7番手に上がった。このタイムでQ-1が終了。

わずかなインターバルの後、TOP10台で行われるQ-2が始まった。

インターバルの間で、リヤサスペンションのセッティング変更を施したが、迅速に作業を進めたが、Q2予選開始時間に間に合わず、僅かに割り込んでしまった。

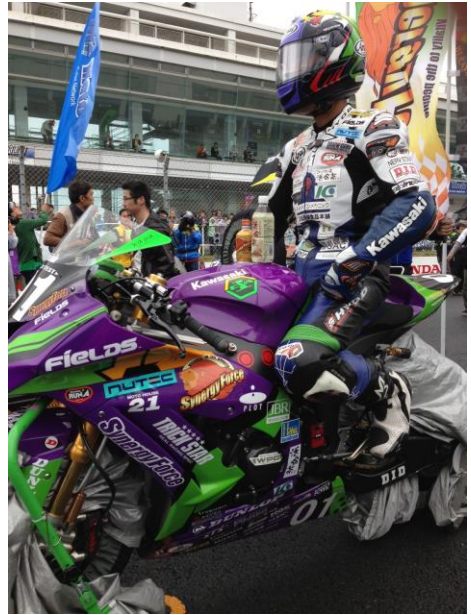
3周目に2'04.534のタイムを出し、セッティングを変更するためにピットインしてきた出口選手だった。残り時間は僅かだが、充分タイムアップできる時間はあった。

しかし、ここで雨が多く降り出してしまい思った様にタイムアップ出来ない状況となり、結果3周目に出したタイムで8番手となってしまった。



[決勝] 6月2日(日) WEATHER:Rain COURSE:Wet

前日と同じく朝から雨が降っていた。
朝のフリー走行から感触は悪くはなかった。
決勝スタートが切られオープニングラップを10番手に
順位を下げてホームストレートを通過した出口選手。
3周目には11番手に順位を下げてしまう。
しかし4周目にはタイムを1分59秒台に上げ2台抜き
9位でホームストレートを通過。
尚もタイムアップし前を追いつける出口選手。
コンディションは小雨となり路面が乾き始めて来た。
天候を読みそれに合ったタイヤをスポンサーである
ダンロップタイヤのアドバイスを参考にし、チョイスした
タイヤのパフォーマンスが発揮され始めた。
他車がペースを落とす中、出口選手は1分58秒にタイム
を上げることに成功した。
順位も6周目に8位、11周目に7位とどんどん追いつけ
続けた。
12周目には6位に上げてきて、遂に13周目には5位の
ポジションに着く。
尚も4位に1秒以内の位置で追走し、いよいよファイナルラップに突入した。
4位を走る同じダンロップタイヤを履くゼッケン71加賀山選手を追い続け、
抜き去ることはできずそのまま5位でゴールとなった。



[ライダー 出口修 コメント]

まずは、急な参戦にもかかわらず現地まで多くの方々が応援に駆けつけて下さった事に感謝致します。
今回の参戦趣旨は、今後の8時間&24時間を見据えあらゆる条件下で速く走れるマシン作りと
タイヤの熟知、そして何より最終戦へのポイント獲得が絶対使命でした。
今後のスケジュールを考えると後にも先にも今回限りの参戦という事と梅雨入り直後で安定しない
天候の下、正直、精神的にかなりプレッシャーの有るレースウィークでした。
雨の予選、始めて履くダンロップのレインタイヤで更に緊張感が高まりましたが、タイヤのフィーリン
グの良さを感じてタイムよりもセッティングを重視してピットインを繰り返しマシンを仕上げて行きまし
た。
雨が上がり難しいコンディションで迎えた決勝レースでしたが、未経験ではあるものの、グリッドに
着く直前にタイヤメーカーさんの勧めとチームとの相談の上で決断した仕様違いのタイヤが功を奏
し、数多く参戦するファクトリー勢の間に割って入る5位、何より集団を抜けてからのラップタイムが
トップと遜色無かった事で今後の可能性を十分に期待できる内容だったと思います。
次戦以降8耐、24時間と続きますが、更に気を締めてレースに臨みたいと思います。
今後も応援よろしくお願い致します。

[監督 鶴田竜二 コメント]

前回の鈴鹿2&4レースでノーポイントとなってしまい、我々の予定していた最終戦のMFJ-GPにこのままでは出場が出来なくなってしまう為、今回のオートポリス戦に急遽スケジュールを組み直し参戦する事にしました。

今回は絶対にポイントを獲得しなければならず、転倒しないレースをするようにと私から出口選手にリクエストをした為、彼にはかなりプレッシャーとストレスがあったでしょう。

しかしその中でしっかり集中して、いい走りをしてくれました。

また彼の走りを支えてくれた大きな要因はダンロップタイヤさんの存在なくしては語れないと言えましょう。

しかし、けして順調なレースウィークではなく、初日に転倒を起こしてしまい、嫌な空気が漂ったのも事実です。最後まで諦めずにチームが一丸となって、取り組んだ結果が今回の様な結果を導けたのだと思います。

このレースをきっかけに、良い形で鈴鹿8時間耐久レースに繋げていきたいと思います。

最後に我々をいつも支えてくれるスポンサー様をはじめ、ファンの皆さんに感謝しております。